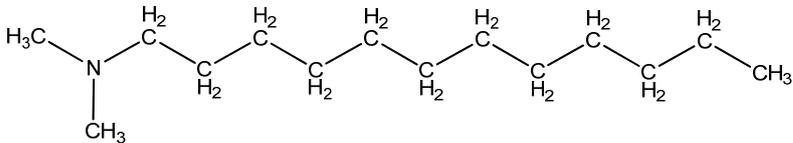


6	CAS 番号 : 112-18-5	物質名 : <i>N,N</i> -ジメチルドデシルアミン
化審法官報公示整理番号 : 2-176 (<i>N,N,N</i> -トリ-アルキル (又はアルケニル, アルキル又はアルケニルのうち少なくとも1個はC8~24で他はH又はC1~5) アミン)		
化管法政令番号 : 1-223		
分子式 : $C_{14}H_{31}N$ 分子量 : 213.40		
構造式 : 		

1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 8.6 mg/L (25°C、計算値)、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 5.5 (計算値)、蒸気圧は 0.016 mmHg (=2.1 Pa) (25°C、計算値)である。生物分解性 (好氣的分解) は分解性が良好と判断される物質である。また、環境中で加水分解性の基をもたない物質とされている。

本物質は、化学物質審査規制法優先評価化学物質及び化学物質排出把握管理促進法第一種指定化学物質に指定されている。主な用途は、カチオン界面活性剤・両性界面活性剤・樹脂処理剤・石油回収剤・消毒剤・アミンオキサイド・第四級アンモニウム塩原料、浮遊選鉱剤、顔料表面処理剤、顔料ブラッシング剤、肥料固結防止剤、繊維の柔軟仕上剤とされている。本物質の平成 25 年度における製造・輸入数量は 6,000t、化管法における製造・輸入量区分は、100 t 以上である。

2. 曝露評価

化管法に基づく平成 25 年度の環境中への総排出量は 0.078 t となり、すべて届出排出量であった。届出排出量の排出先はすべて大気であり、移動量は廃棄物へ約 0.36 t であった。届出排出量の多い業種は、化学工業のみであった。多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合は、環境中及び公共用水域への推定排出量が最大の地域を予測対象とした場合には大気が 75.2%、土壌が 16.3%であった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 1.2 µg/L 程度、海水域では概ね 0.0062 µg/L 未満となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Desmodesmus subspicatus* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 23.5 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 83 µg/L、魚類ではニジマス *Oncorhynchus mykiss* の 96 時間 LC₅₀ 570 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.23µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *D. subspicatus* の生長阻害における 72 時間 NOEC 2.6 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 36 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.026 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類の慢性毒性値から得られた 0.026 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 46、海水域では 0.2 未満となるため、詳細な評価を行う候補であると考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
藻類 緑藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	0.026	淡水	1.2	46	■	■
					海水	<0.0062			

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	詳細な評価を行う候補と考えられる。	■

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない
(○)：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(－)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す